平成24年度当初予算（案） 事業別シート　　宇陀市 簡易水道事業特別会計

事業区分	継続	事業名	大宇陀簡易水道統合整備事業

所管課	水道局総務課	（水道局）

簡易水道事業特別会計予算		
区分	No.	区分名
款	1	総務費
項	2	施設整備費
目	1	施設整備費
細目	10	施設整備費

事業の目的

心の森福祉ゾーン一帯は、丘陵地に位置していることから、中央簡易水道区域としては水圧・水量共に日常苦慮している状況にあり、一時的に南部簡易水道区域からの水により補充している。この地域周辺の水量、水圧不足を早期に解消するため中央・東部簡易水道を連絡管にて結び水道施設改善整備を行う。

根拠条例等	憲法25条及び水道法第15条
総合計画	基本計画　第3章　第4節　上下水道の整備

H24年度事業の概要

①水道送水管埋設工事
　国道166号線に埋設φ75　L-320m
②舗装復旧工事
　舗復旧面積　A=2，400㎡

事業の成果

平成22年3月に事業認可を得ました中央・東部簡易水道区域は、ひとつ大宇陀簡易水道事業給水区域となった。福祉ゾーンとしての施設をより充実し安全・安心な水が安定して供給されるようになり、災害時の避難場所としての機能をもつ貯水槽も建設された。

財源の内訳　（単位：千円）		
分担金		
使用料		
国　費		4,250
県　費		
市　債		12,700
その他		50
一般財源		
H24予算額	A	17,000
H23当初予算額	B	18,000
H23現計予算額		18,000
増減額	A－B	▲ 1,000

事　業　の　コ　ス　ト	平成22年度（実績）	平成23年度（見込）
決算額又は決算見込額（千円）	36,400	18,000
従事職員数【人工】	0.50	0.50
人件費（人工×8,000千円）	4,000	4,000
総事業費：人件費含む（千円）	40,400	22,000
活動指標名	進捗率	
活動指標の算式	当該年度実施額/全体事業費	
活動指標の実績	34.0 単位 %	17 単位 %
単位当たりコスト　（円）	1,188,235	1,294,118

特定財源の状況

簡易水道再編推進事業補助金
4,250千円

簡易水道事業債
12,700千円

簡易水道事業基金
50千円

事業の目標

心のもり福祉ゾーン一帯の水圧・水量不足の解消。南部簡易水道施設の稼働率を100%を正常な70%に戻す。

備考

＜予算案のポイント＞
【重点事業】
3．市民安心安全プロジェクト
［生活基盤の整備］
(2) 水道給水区域の拡大

平成24年度当初予算（案） 事業別シート　　宇陀市 簡易水道事業特別会計

事業区分	継続	事業名	室生中央簡易水道統合整備事業（大野三本松・古大野）

所管課	水道局総務課	（水道局）

事業の目的

奈良県水道局は、平成26年度に室生大野・三本松へ県営水道を送ることが現実となった。このことから室生川の水利権が自動消滅する暫定水利であることや、内山浄水場の老朽化に伴う大改造に多大な経費を費やす必要がなくなったこと等により、三本松に受水池を建設し県営水道に切替え、古大野飲料水供給施設と統合整備することとした。

簡易水道事業特別会計予算		
区分	No.	区分名
款	1	総務費
項	2	施設整備費
目	1	施設整備費
細目	10	施設整備費

根拠条例等	憲法25条及び水道法第15条
総合計画	基本計画　第3章　第4節　上下水道の整備

H24年度事業の概要

①受水池造成工事　A＝900㎡

②受水池進入路工事　L=720m

③配水管埋設工事　L=720m

事業の成果

現在、宇陀川と室生川を原水として内山浄水場で水をつくり、三本松配水池にポンプ加圧して溜めています。これを県営水道の水源に切り替えることにより浄水場の運転経費及び維持管理経費削減につながります。古大野飲料水供給施設においてもこの給水区域と統合することにより、室生中央簡易水道区域として安全・安心な水が安定的に供給できる。

財源の内訳	（単位：千円）	
分担金		
使用料		
国　費		28,750
県　費		
市　債		86,200
その他		40,050
一般財源		
H24予算額	A	155,000
H23当初予算額	B	25,970
H23現計予算額		25,970
増減額	A－B	129,030

事　業　の　コ　ス　ト	平成22年度（実績）	平成23年度（見込）
決算額又は決算見込額（千円）	2,993	25,970
従事職員数【人工】	0.25	0.25
人件費（人工×8,000千円）	2,000	2,000
総事業費：人件費含む（千円）	4,993	27,970
活動指標名	進捗率	
活動指標の算式	当該年度実施額/全体事業費	
活動指標の実績	1.0 単位 %	7 単位 %
単位当たりコスト　（円）	4,993,000	3,995,714

特定財源の状況

簡易水道再編推進事業補助金　28,750千円

簡水債　43,100千円

過疎債　43,100千円

簡易水道事業基金繰入金　40,050千円

事業の目標

簡易水道各施設の維持管理経費の削減。
宇陀市民が安心して暮らせる生活環境づくり

備考

＜予算案のポイント＞
【重点事業】
3．市民安心安全プロジェクト
［生活基盤の整備］
(2) 水道給水区域の拡大

平成24年度当初予算(案) 事業別シート　　宇陀市 簡易水道事業特別会計

事業区分	継続	事業名	松井簡易水道事業

所管課	水道局総務課	(水道局)

簡易水道事業特別会計予算		
区分	No.	区分名
款	1	総務費
項	2	施設整備費
目	1	施設整備費
細目	10	施設整備費

事業の目的

当地域は、井戸及び取り水を生活用水として使用しています。また渇水期になると枯渇する井戸もあり、安定した水量も得られず苦慮しているところです。本事業を実施することにより安定した水量、安全な水質を確保することができ生活環境の改善が図られる。

根拠条例等	
総合計画	基本計画　第3章　第4節　上下水道の整備

H24年度事業の概要

①大熊地区給配水管」工事
HPPE　φ75　L-820m　φ40　L=141m
消火栓　2基　　給水戸数　4戸
②大熊地区給配水管」工事
HPPE　φ75　L-942m　φ40　L=149m
消火栓　2基　　給水戸数　5戸

事業の成果

給水区域を拡張したことにより生活環境の改善、公衆衛生の向上がみられた。安全で安心して飲める水を安定したかたちで供給する。また消火栓設置した事から防災面でも拡充されてきた。

財源の内訳　(単位:千円)		
分担金		3,150
使用料		
国　費		12,520
県　費		
市　債		18,400
その他		230
一般財源		
H24予算額	A	34,300
H23当初予算額	B	42,344
H23現計予算額		42,344
増減額	A－B	▲ 8,044

事業のコスト	平成22年度(実績)			平成23年度(見込)		
決算額又は決算見込額(千円)	47,760			42,344		
従事職員数【人工】	0.50			0.50		
人件費(人工×8,000千円)	4,000			4,000		
総事業費:人件費含む(千円)	51,760			46,344		
活動指標名	進捗率					
活動指標の算式	当該年度実施額/全体事業費					
活動指標の実績	1.0	単位	%	2	単位	%
単位当たりコスト　(円)	51,760,000			23,172,000		

特定財源の状況

簡易水道施設等整備費補助金 12,520千円
簡易水道事業債　9,200千円
辺地債　9,200千円
工事負担金　3,150千円
簡易水道事業基金繰入金 230千円

事業の目標

平成23年度に県道佐倉大宇陀線の大熊から佐倉峠まで幹線管路を埋設しますとメイン管が全て整備されたことになり、続いて大熊集落地内へ配水管を延ばし各戸に給水する。今後は宇賀志、東平尾、下片岡、上片岡、佐倉地区の各集落へと加入率の高い地域へ給水施設整備する予定であり、水量の安定と安全な水質の確保を図る。

備考

＜予算案のポイント＞
【重点事業】
3. 市民安心安全プロジェクト
［生活基盤の整備］
(2) 水道給水区域の拡大

平成24年度当初予算(案) 事業別シート　　宇陀市 簡易水道事業特別会計

事業区分	継続	事業名	田原簡易水道事業

所管課	水道局総務課	(水道局)

事業の目的	当田原地区は、井戸及び取り水を生活用水として使用しています。また、渇水期になると枯渇する井戸もあり、安定した水量が得られず生活に影響を及ぼしている状況にあります。本事業を実施することにより安定した水量、安全な水を確保することができ生活基盤の改善が図れる。

簡易水道事業特別会計予算		
区分	No.	区分名
款	1	総務費
項	2	施設整備費
目	1	施設整備費
細目	10	施設整備費

根拠条例等	水道法第15条
総合計画	基本計画　第3章　第4節　上下水道の整備

H24年度事業の概要	①県道佐倉大宇陀線の下片岡～白鳥居区間 L=1,040m　給水戸数　5戸　を実施する。
事業の成果	水道未普及地解消事業により生活環境の改善、公衆衛生の向上が図られ水道施設整備によって防災面でも拡充されてきた。

財源の内訳　(単位:千円)		
分担金		1,750
使用料		
国　費		14,400
県　費		
市　債		21,600
その他		1,250
一般財源		
H24予算額	A	39,000
H23当初予算額	B	34,878
H23現計予算額		34,878
増減額	A－B	4,122

事業のコスト	平成22年度(実績)			平成23年度(見込)		
決算額又は決算見込額(千円)	39,192			34,878		
従事職員数【人工】	0.50			0.50		
人件費(人工×8,000千円)	4,000			4,000		
総事業費:人件費含む(千円)	43,192			38,878		
活動指標名	進捗率					
活動指標の算式	当該年度実施額/全体事業費					
活動指標の実績	5.0	単位	%	3.0	単位	%
単位当たりコスト　(円)	8,638,400			12,959,333		

特定財源の状況

簡易水道施設等整備費補助金 14,400千円

簡易水道事業債 21,600千円

工事負担金 1,750千円

簡易水道事業基金繰入金1,250千円

事業の目標	守道、山口、白鳥居、上品、下品、和田地区は、水道未整備地区であり井戸原水の汚染や枯渇により毎日の生活に不安がつきまとっております。くらしの安心を守るため水量の安定と安全な水質を確保するため、水道未普及地解消事業のメニューから衛生的な飲料水導き住民の生活基盤の向上と地域の振興を図るものである。

備考	＜予算案のポイント＞ 【重点事業】 3. 市民安心安全プロジェクト ［生活基盤の整備］ (2) 水道給水区域の拡大